

ひとりひとりがきらっと輝いた！ あいサポート・特別支援学校合同文化祭!!

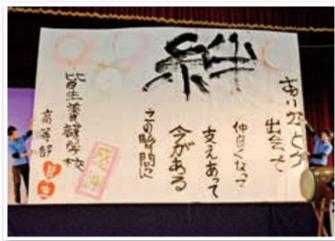
10月24日(土)、倉吉体育文化館に約1,000人が集い、特別支援学校合同文化祭が盛大に開催されました。ステージ発表では、この日のために練習を積み重ねてきた県内10校の特別支援学校による工夫を凝らした学習発表やダンス発表、第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園優勝校奈良県立ろう学校による演劇や中部の高等学校3校による吹奏楽合同演奏などが披露され、会場は多くの拍手で包まれました。

フィナーレでは、中部の中学校や手話サークルの皆さんと一緒に「あなたと一緒に歌いたい」を手話で歌いました。会場全体が一つとなり、障がいのある人と障がいのない人が共に作り上げた特別支援学校合同文化祭となりました。

今年初参加の県立皆生養護学校から感想が届きましたので御紹介します。

- 力を合わせた書道パフォーマンスが成功してうれしかったです。たくさんの拍手をいただいてよかったです。
- この6人で1つの作品を書き上げることができてよかったです。
- 最後の「作品披露」で歓声があがった時に、皆で今まで一緒にやってきてよかったなと思いました。

問合せ先 県教委特別支援教育課 電話 0857(26)7575 FAX 0857(26)8101



皆生養護学校 書道パフォーマンス

平成27年度 鳥取県体力・運動能力調査の結果

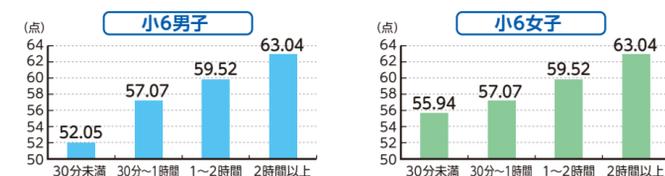
県内全公立小学校・中学校、県立高等学校(全日制)の全児童生徒(小1～高3の計12学年)を対象に実施された調査の結果をお伝えします。

実技の調査① 体力合計点比較

項目	向上						低下					
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小1	小2	小3	小4	小5	小6
男子 H27	30.67	37.73	43.80	49.04	54.43	59.50	30.48	37.72	43.70	49.44	54.27	60.28
男子 H26	33.69	42.65	49.44	52.20	57.51	60.13	33.78	42.86	49.30	53.22	57.11	59.23
女子 H27	30.62	38.41	44.09	49.95	56.18	60.50	31.01	38.04	44.28	50.49	55.48	60.83
女子 H26	44.40	49.63	52.21	51.88	54.50	55.74	45.03	49.96	51.77	52.51	54.34	55.01

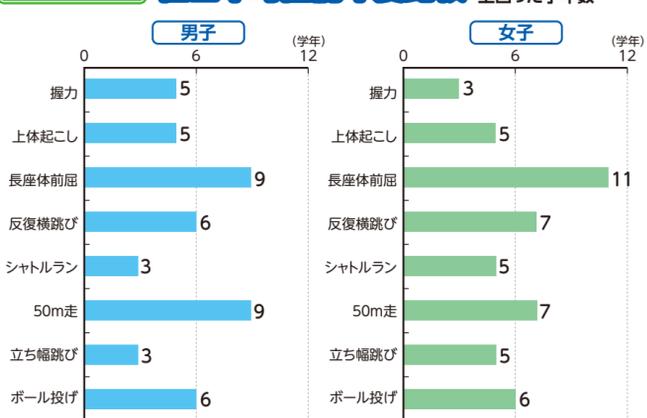
H26とH27の体力合計点(8種目の合計点)平均値を比較すると、小1～高3までの男女それぞれ12学年(計24学年)のうち、男子7学年、女子5学年の計12学年で前年度を上回っています。

質問紙調査 運動実施時間と体力合計点



どの学年でも、運動実施時間が長くなるにつれて、体力合計点平均値が高くなる傾向にあり、運動実施時間が短い児童生徒との差が見られます。

実技の調査② 種目平均値前年度比較



50m走、長座体前屈、反復横跳び、ボール投げにおいて、半数以上の学年で前年度の数値を上回っています。特に鳥取県の課題である長座体前屈や近年低下傾向にある男子の50m走はほとんどの学年で前年度の数値を上回っています。

問合せ先 県教委体育保健課 電話 0857(26)7923 FAX 0857(26)7542

長期宿泊体験学習モデル事業

船上山少年自然の家・大山青年の家では、小学校高学年が丸ごと3泊～5泊の集団宿泊体験を行う長期宿泊体験学習モデル事業を行っています。今年も子どもたちが自然の中で様々な活動を行い、失敗したり成功したりして多くの達成感を得たり、長い期間みんなといっしょに過ごすことで、とまどちの大切さや、自分のよさを発見しました。

- H27実施校
- 倉吉市立高城・社・北谷小学校連合(3泊4日)
 - 大山町立大山小学校(5泊6日)

- 活動内容
- ・カヌー
 - ・グループ登山
 - ・自然観察
 - ・サバイバル野外炊飯
 - ・火起こし体験
 - ・写仏
 - ・キャンプファイヤー
 - ・リヤカーロードウォーク
 - ・絵画教室
 - ・肝だめし
 - ・星空観察
 - ・教科学習

船上山アドベンチャースクール

大山セカンドスクール

- 見られた効果
- 野外炊飯など複数回の活動を行うことで、失敗を成功に活かす→達成感の獲得
 - しっかりとした役割分担
 - 気づき、判断、関係づくりの育成

- 保護者の声
- 子どもの学びの場として継続してほしい
 - 自分で解決しようとする姿が見られるようになった
 - 睡眠時間を気にするようになった
 - 親の子離れによい

問合せ先 県教委社会教育課 電話 0857(26)7519 FAX 0857(26)8175
 県立船上山少年自然の家 電話 0858(55)7111 FAX 0858(55)7119
 県立大山青年の家 電話 0859(53)8030 FAX 0859(53)8265

シリーズ 米子東高等学校 ふるさとを想う「21世紀のリーダー」の育成をめざして

土曜活用事業
発見!妻木晩田遺跡～弥生の王国～
6月6日

妻木晩田遺跡が全国的にも大きく、貴重なものであることを知った。
鳥取の自慢の遺跡を多くの人に知ってほしい。
教科書だけではわからないことを多く知った。

土曜活用事業
日本一の図書館とレオナルド・ダ・ヴィンチ展
6月20日

図書館は本を読むだけでなく、伝統文化の理解のためにも必要な場所である。
規模の大きさに驚いた。本当に必要な情報は本から得たいと思った。

21世紀のリーダーをめざす
地域のリーダーから学ぶ
～県庁・地元銀行本店訪問～
10月13日

インターネット等では知ることのできない公務員の仕事内容などを知ることができた。
学校の授業で聞いていた「為替」が銀行を訪ねたことで身近なことだと感じ、社会を学ぶことができた。
鳥取県で働きたいと思っているので現実的に考えられるようになった。

土曜活用事業
東大総長大賞受賞OB講演
「自分のリミッターを外そう」
7月4日

広い世界に目を向けて幅広い人々と関わっていくことの大切さを学んだ。
自分でバリアを張りつけても面白くないことや、世界に出て自分の目で見て自分の価値観を形成していくことの大切さを学んだ。

米子東高等学校の生徒は、開校以来の伝統である校訓「質実剛健」・校風「文武両道」のもと、学習と部活動とを両立させ、将来の「リーダー」として活躍できるよう目標に向かって努力しています。

今年度からは、生徒が校外へ飛び出し、様々な分野について地域の資源や人材から学ぶ取組をおこなっています。

「土曜活用事業」では、現地見学を行い、普段の授業ではなかなかできない体験的活動に取り組んだり専門的な指導を受けたりすることで、生徒はそれぞれの分野や地域に関して、興味を持ちながら、多くのことを学習しています。

また、キャリア教育の一環としておこなっている学校独自事業「21世紀のリーダーをめざす」では、県内外の企業等を訪問し、熱意やリーダーシップについて学びました。このような取組をおして、卒業後もふるさとの発展を願うリーダーとして成長してくれることを期待しています。

●その他の「土曜活用事業」

- ・奥大山ブナ林と大山の名水(10月24日)～飲料水工場・奥大山ブナ林～
- ・小惑星・隕石の化学分析から見えてきた宇宙のすがた(1月16日)～岡山大学地球物質科学研究センター～
- ・見よう!学ぼう!コノクチョウとラムサール条約湿地(2月)～米子水鳥公園～

●その他の「21世紀のリーダーをめざす」

- ・世界一の技術と熱意から学ぶ(8月6日)～島津製作所(京都市)～

問合せ先 県立米子東高校 電話 0859(22)2178 FAX 0859(22)2170

シリーズ 鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教職員全体の指導力向上を図っています。今回は倉吉市立河北中学校の小谷 孝教諭(認定分野:理科)にお話を伺いました。



楽しくて、わかりやすい。そして、力のつく理科の授業をめざして

◆「やってみよう!」「確かめよう!」を引き出す導入の工夫

「ええっ!何で?」生徒の驚く声が理科室に響きます。ある授業での演示実験です。無色透明な液体に水を入れると、氷が沈んでいきます。生徒は、「氷は浮くもの」と思っているのに、大変な驚きです。このような「意外性」のある実験は、生徒の好奇心をくすぐり、探究心を生み出します。良い授業の鍵は「生徒の意欲を引き出す課題設定」にあります。理科では、その課題を観察・実験から見つけることが大切です。生徒が興味・関心を高めるような観察・実験を工夫し、課題提示につなげています。

◆実験や体験活動を重視

本物に触れたり体験したりすることは、生徒の意欲を高めるだけでなく、事物・現象への理解を助け、考える活動を充実させます。多くの生徒は実験を楽しみにしています。「どんな小さなことでも、実験で確かめる」ことを授業の中心に据え、生徒と共に課題を解決する学習活動を展開しています。

例) 校庭の砂場に砂で火山を作り、実際に爆発させてカルデラ*を作る。
 正体不明の気体の正体を調べるための実験を計画し、実験により明らかにする。
 金星の溝欠けモデル(自作)を活用し、そのしくみを理解する。

*カルデラ…火山活動によってできる凹地

◆「ノートは宝」

楽しい実験や体験、思考場面の設定だけでは、わかったつもりになっていることが多いのも事実です。そこで「ノートは宝」を合い言葉に、学んだことを「自分の力」で「自分の言葉」でノートに書く活動を大切にしています。「書く」ことで自分の思考が整理され、学習内容も定着していきます。

◆先進的な実践にもチャレンジ!

「生分解性プラスチック*の実験」や「自然界の食物連鎖を再現する体験活動」など、大学で開発された最新の教材や授業法を取り入れ、授業改善にチャレンジしています。教育における「不易と流行」を大切にしながら、「楽しくて、わかりやすい。そして、力のつく理科の授業」をめざして努力しています。

*生分解性プラスチック…微生物によって分解されるプラスチック

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7512 FAX 0857(26)8170

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!

第19回 鳥取藩台場跡 ～風雲急を告げる幕末の海防遺産～



室長 松井 潔

作家・吉村昭の小説に「間宮林蔵」があります。謎多き探検家の波瀾万丈の生涯を描いた作品ですが、この中で、間宮が文化4(1807)年、択捉島の番所に勤務していたとき、幕府から通商を断られたロシアのレザノフが、報復のため引き起こした「択捉島襲撃事件」に巻き込まれたときのようなすがり活写されています。このように、幕末の日本列島周辺には異国船が頻りに出没するようになり、にわかに緊張が高まったので、幕府も文政8(1825)年に「異国船打払令」を出すなど対応に追われる最中、嘉永6(1842)年にはペリー来航という大事件も起きました。鳥取藩でも、こうした情勢の緊急性から、鳥取城下に近い千代川河口近くや橋津(湯梨浜町)、淀江(米子市)など年貢米を納める藩倉がある地など、藩内の重要地点9か所に、文久2(1862)年から三年間という短期間で台場を造り始めました。また、台場に据える大砲を製造するため、西洋式の鉄精錬所である反射炉を穴尾(北栄町)に設けました。これらの施設を造るため、郷土・武信潤太郎に長崎で西洋砲術も学ばせました。けれども、当時の鳥取藩の財政は火の車。とても肝心の台場を造るお金がありませんでした。そこ

で、豪農、豪商から多額の献金をうけ、郷土や農民、町人を動員して何とか完成させました。現在、県内には、浦富(岩美町)、橋津、由良(北栄町)、赤崎(琴浦町)、淀江、境(境港市)と6か所もの多様なかたちの西洋式台場跡が残っていて、うち5ヶ所が国の史跡に指定されていることは他県にはない大きな特徴です(*)。最近では、複数の台場跡をめぐる「台場ツアー」(琴浦町)や「台場サミット」(北栄町)など、台場を活用する取組も始まっています。幕末の郷土の先人たちが、鎖国が開国かという大きな歴史のうねりの中で造り上げた貴重な遺産をこれからも県の宝として大切に活用していきたいですね。*残る赤崎台場跡も国史跡に指定されることが11月20日に内定しました。



松江藩(親藩)防備のため造られた「境台場跡」

問合せ先 県教委文化財課 電話 0857(26)7934 FAX 0857(26)8128
 鳥取県の文化財情報HP(とっとり文化財ナビ)
<http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>

鳥取県立美術館 青島上寺地蔵堂イメージキャラクター 作者 境港市 寺本 綾さん

「キエモンド」
土器をイメージして描きました。古土を出したかったので、ひびやこけ、割れ目も再現してみました。